

「体験で知った障害者スポーツ」

- 指導者交流会で得たこと -

会員 安藤利彦

障害者スポーツのボランティアとして、見様見真似で活動を始め、やがて市障害者スポーツ指導者協議会に加入登録して7年目になる。同協議会々員には、私と同じく退職後に社会参加を目指している人、また現役の方達や福祉関係の業務に携わっている方々も多く様々で、経験も豊富な先輩ばかりである。それだけに経験の浅い私にとっては、見習うべき点が多く、大会やスポーツ教室、講習会などスポセン企画の行事に参加し、会員達と活動を共にするその機会は、勉強の場であり、一堂に会する交流するチャンスが少ないだけに大切にしている。さる7月22日(土)第4回指導者交流会が、市障害者スポーツセンター体育室で開催され参加した。今回のテーマは、障害者スポーツ種目のルールや指導法を、実技を通して勉強するとの企画であった。その第1回は「卓球」で、参加者全員が約2時間、テーマに沿って、懸命に白球を追い汗を流した。そして後半は、団体戦となりミックスダブルスと車いすシングルスで対戦し、試合の中でも、サーブの方法や車いすルールなどを確認した。私は、車いすを使用しての卓球を初体験した。さて、試合が始まってみると、ルールの違いや全く異なるプレーの連続であることを知り、戸惑いばかりであった。短時間のうえ1回で、全てを知ることは不可能だが、多くのことを初体験から学んだように思う。のち、別会場に移って、会員相互の親睦を深めるための2次会が開催され、引き続き参加した。何時も、楽しい雰囲気と美味しい料理を準備して頂く事務局スタッフには、感謝する次第である。いつ迄も話題が尽きない2次会であったが、日頃の活動に関する事柄についての意見交換も、活発に行われた。その中でも会員から「指導者交流会へ、多くの仲間に参加を呼び掛けよう。そして、この企画を盛り上げて行こう」との発言があり、とても共感を持った。次回には、多くの会員の理解と関心が高まり、一層盛り上がることを期待し努力したい。第4回の交流会では、新しい企画として体を動かした交流があり、体験を通して色々習得したことは多く、有意義であったと思う。何よりも「スポーツの楽しさ」が、何人であろうと平等であることを、体験を通じて確認できたことは、今後活動していく上で大きな収穫であった。平成18年8月3日記